



岩手県

区画整理区域では盛土が進む

神社の背後地の山を切り崩し  
防災集団移転先になる

東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター  
被災していない3階で研究が続けられている

prof. Aya KUBOTA  
assistant prof. Takefumi KUROSE  
visiting researcher Akiko TANAKA  
M2 Asuna SEGAWA  
M2 Akiho HANO  
M2 Akinobu MASUMURA

2015年7月の大槌町赤浜地区



2014年7月の大槌町赤浜地区

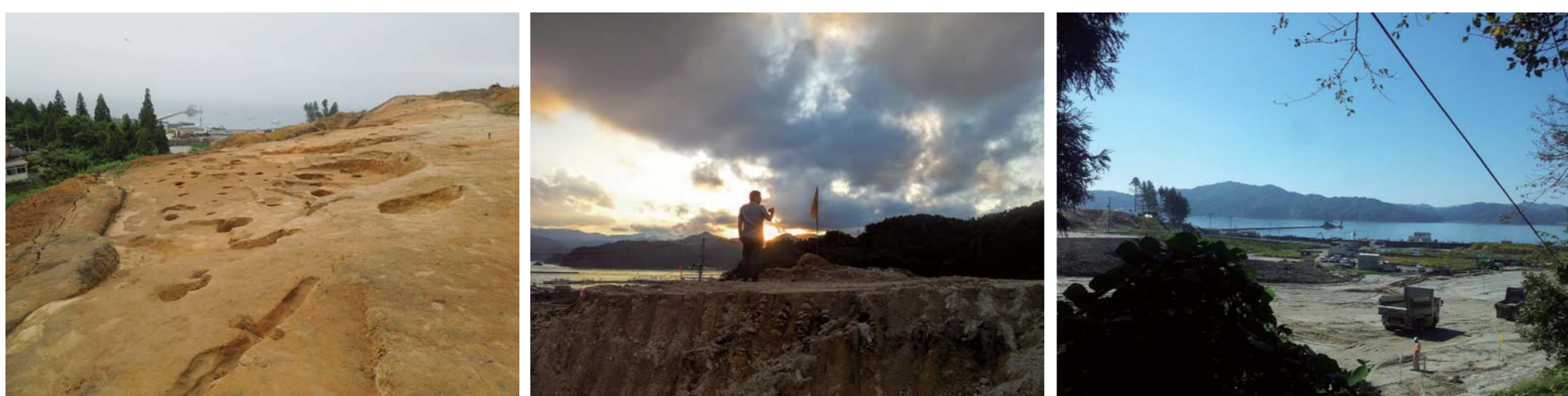


震災前の大槌町赤浜地区

## 大槌プロジェクトの取り組み

東日本大震災後、都市デザイン研究室では東大海洋研のあった大槌町赤浜で集落の被災状況等に関する調査活動を開始した。2011年度は、町の文化資源を調査・整理し、まちの記憶を掘り起こし、2012年度はより詳細に震災前の生活風景を知るためにヒアリング等を行った。加えて住民とともに震災時の避難行動の調査を行い、冊子にまとめている。2013年度は復興計画の策定に伴い必要となる空間提案に関する調査・分析を行い、2014年度はこれまでの調査による知見を地域で発表する機会を設け、同時に読みやすい冊子とした。また、亡くなった方と街や人との関係性や空間の変化の記録を行った。

2015年度は盛土や切土などの工事が本格的に始まり、集落の姿が日々変化していく1年だった。復興計画が実現するのを前に、反省や記録の必要性を感じ、自主的な検証を始めた。



▲ 盛土や切土が進む現場。土の下からは遺跡が見つかった。

## 生きた証プロジェクト

東日本大震災で亡くなった方の人となりや家族や友人に伺い、後世に伝えることを目的とした「生きた証プロジェクト」が2014年度から大槌町で始まった。大槌プロジェクトとして赤浜集落を担当し、地元の方の協力を得ながらお話を伺った。2年間で40人あまりの犠牲者についての聞き取りを終えた。プロジェクトとしては大槌町全体で取りまとめ、冊子化することになっている。

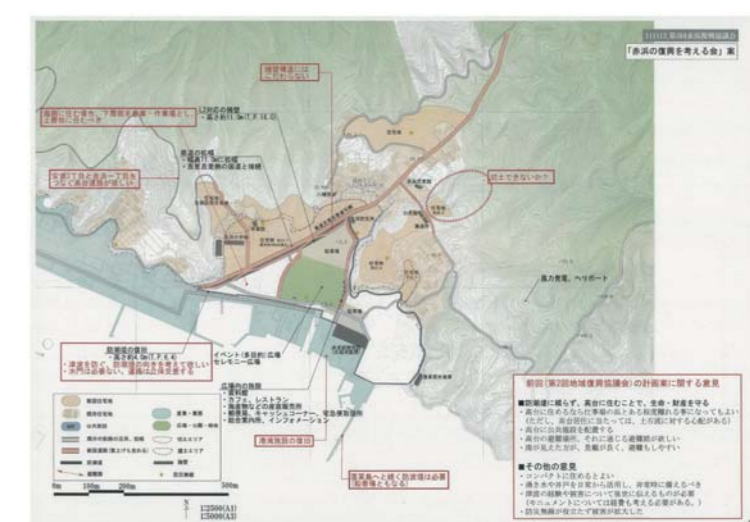
## 2015年度の活動

- 5/27-28 生きた証プロジェクト 聞き取り
- 9/27-30 生きた証プロジェクト 聞き取り
- 10/16 赤浜の復興の検証 # 1
- 11/9 赤浜の復興の検証 # 2
- 2/15 赤浜の復興の検証 # 3
- 2/27-29 生きた証プロジェクト 聞き取り
- 3月上旬 生きた証プロジェクト 原稿作成
- 3/12 赤浜の復興の検証 # 4

## 赤浜の復興の検証

窪田先生、黒瀬先生は大槌町から委託されて赤浜地区の復興計画のコーディネーターを務め、赤浜地区の復興計画に関わってきた。プロジェクトとしてその過程を振り返り、記録する試みを10月から始めた。5年が経過し、紆余曲折あった復興計画策定の記憶が薄れつつある。当初見通せなかったこと、考えが及ばなかったこと、事業制度の不完全さ等が多々あり、反省し、復興計画の課題やあり方を考え直している。2016年度も検証を続け、冊子としてまとめる方針である。

参加メンバー：窪田、黒瀬、羽野、益邑、瀬川＋田中暁子(後藤・安田記念東京都市研究所)、上條慎司(小野寺康都市設計事務所)、萩原拓也(日本設計)



2016年度は赤浜の復興の検証を続けます。  
関心がある方はご連絡ください。  
連絡先：益邑 (masumura@td.t.u-tokyo.ac.jp)